MISS KEIO
ミス慶應コンテスト2020

Ms. & Mr. Keio Contest グランプリインタビュー

坂本奈優さん

○コロナ禍ならではの苦労

写真撮影でも直前までマスクをしているので、すぐにメイクを直さないといけなかったり、SNSの投稿も適切かどうか考えないといけないなど、ちょっとした「ひと手間」が増えたことですね。

○フィナーレ当日の心境

普段の撮影に行くときと同じ心境でした。表彰式まで緊張はしていなかったですね。受賞が分かってからは、うれしい気持ちでいっぱいなのは間違いないんですけど、「あっ、グランプリ取ったんだ」っていうのが率直な気持ちでした（笑）。中間発表もなかったですし、得票数がどのくらいなのかも分からないので、「自分が絶対獲れる」っていう確信はなかったんです。

○楽しかった思い出

この活動をしてなかったら経験できなかったようなことが出来たのが楽しかったですね。雑誌撮影とか、他大学のミスコンファイナリストとの交流とか。

やっぱりお遊び程度でやっている人は一人もいなくて、覚悟をもって出てる人ばかりでした。そういう人たちと友達になれたりするのが、私にとってこの活動をやっていてよかったと思えることの一つです。

○大学生活でやりたいこと、また将来の目標

よく聞かれるんですけど、ちょうど悩んでいるところです。残りの大学生活では将来に繋がる活動をしたいと思っているんですが…。あ、この話終わりがなくて（笑）。アナウンサーとかも考えてはいるんですけど、なったとしてその後どう活躍したいのかというところで悩んでいます。

○ミスコンを通して気付けたこと、変われたこと

表に出て人に見られる活動なので、前より見た目を意識するようになりました。内面的な変化で言えば、いろんな人の意見に引っ張られるんじゃなくて、むしろ自分の信念みたいなものが固まったような気がします。

「これを頑張る」っていうのを自分で決めて、それを自分で認めてあげればそれ以上はないということに気付けましたね。

○他のファイナリストのどんな部分に刺激を受けたか

最初から、みんな一人一人違った個性を持っているなと思っていました。そういうそれぞれの良さの中で、自分の参考になるものはないかな？と考えることで刺激を受けていました。

○「ファイナリストの中で自分が一番○○だ！」と言えるのはどんなところか

これはミスコン期間中に悩んだことの一つでもあって、人と比べて私って何もないなって思ってしまうこともあったんです。今でもパッとは思いつきませんが、周りから言われるように結構まじめな性格なので「真面目さ」…でもそう言って他の人がまじめじゃないみたいになるのも違うと思うんですけど（笑）。強いて言うならスポーツが得意なので、スポーツで競ったときには一番になりたいですね（笑）。

○応援してくれた人へのメッセージ

こういう活動をやっていて思うんですが、応援してもらえるのって全然当たり前のことじゃないんですよね。一日のうち一瞬でも私のことを考えてくれる人がいて、それが積み重なった結果いただけたグランプリ。本当に感謝しかないです。応援してくださったみなさん、本当にありがとうございました。

（松野本知央）

白木慈恩さん

○コロナ禍のコンテスト表

写真撮影をしに行くことが大変でした。ファンの方との交流の場が限られていたので、自分の性格まで知ってもらうには写真だけでは分からないことが多々あり、自分を伝えることが難しかったです。

しかし、コロナ禍のオンライン授業で時間があった分、インスタライブなどでSNSを使う時間が必然的に増え、全体的にうまくSNSを活用することはできたかなと思います。

○三田祭ステージでのミスター慶應グランプリ発表

メインステージでファイナリスト6人が並んだ瞬間に「始まったんだな、そしてもう終わるんだな」と思い、緊張感が走り始めました。

ファンの方からの「投票しましたよ」というDMだったり、友達からの連絡の数だったりといった、数字では見えないファイナリスト6人の勢いから、自分は後半戦を優位に進めて来られたことは感じていました。

6人の自己PRが終わってついにグランプリ・準グランプリが発表されるとなった時、僕の中ではグランプリか準グランプリは取れるであろうという自信が心の中でありましたね。正直、準グランプリで呼ばれなかったらグランプリだろうと思っていました。

準グランプリで自分の名前が呼ばれず、グランプリだと思ったその一瞬にして膝の震えが止まらなくなりました。何を言おう、さてどうしよう、という気持ちになっていました（笑）。

グランプリが発表されると、まず応援してくれた友達、両親、ファンの方々への感謝の思いがこみ上げてきました。僕にとってはここからがスタートなので、グランプリを取ったことに驕らず、次の目標に向かってリスタートしなければいけないとも同時に思いましたね。

○ファイナリストとしての活動を振り返って

期間中一番楽しかったことは毎日のインスタライブでした。ファンからの生の反応が返ってくるので、「これが良いんだ」とか、「これはあまり良くないのか」というように毎日違う形で変化を感じることができました。

辛かったこととしては、障壁になってくるものであったり人であったりというのが多々あった部分です。これがミスターコンなのかと思い大変ではありました。

ファイナリストの6人は仲が良い部分がありながらも、ライバルとしてバチバチになる部分もあったりして難しい関係性だなと感じていました。

前半の中間発表が出るまでの期間は、戦っている意識というのはあまりなかったんですけど、後半戦になればなるほど「仲良くしたいけれど戦わなければいけない」という葛藤が他のファイナリストに対してありましたね。

○これからの白木慈恩

夢に向かって自分に足りない部分を補いながら一歩ずつ進んでいかなければいけないと思います。そしてそれが何かしらの仕事に繋がれば良いなと考えています。

「ミスター慶應2020グランプリ」という肩書は一生消えないものです。ミスター慶應2020というものが人生の肩書きで一番であったとならないように、時間を有意義に使って何かしら活動をしていかなければならないという風に思っています。

ただ、今回のミスターコンでワンステップ上がれたかなという感じはあるので、変な焦り方はせずに自分らしく進んでいって夢の舞台俳優を目指していけたらと思います。

○応援してくださった方へのメッセージ

数か月皆さんが応援してくださったおかげでここまで来ることができました。ここで終わるわけにはいかないので、この先も応援し続けてくださったら嬉しいです。また、みなさんが応援できるような舞台で活躍できるよう今後も日々努力していきますので、これからも白木慈恩をよろしくお願いします。

（高橋明日香）

Campus Idol

法学部 政治学科２年 小野桃果 さん

2020年、様々な苦難があったが、そんな中でも「挑戦」しつづける人がいる。法学部政治学科２年の小野桃果さんだ。彼女は、ＴＡＢＩＰＰＯが主催する世界を旅する女子が輝くコンテストＳＨＩＮＥでグランプリを受賞し、ミストラベル2021の称号を手にした。

彼女が旅に出たいと思ったきっかけは、慶應義塾湘南藤沢高等部の同級生の姿だ。帰国生が海外の学校や暮らしについて目を輝かせて語るのを見て、異文化への興味がわいた。ただ、海外渡航はすぐには叶わなかった。そこで彼女が注目したのが、世界遺産検定だ。３級最年少最優秀賞を受賞し、卒業時には、１級を取得した。

旅先で大事にしているのは、そこで出会う人との「対話」だ。言葉の壁を恐れずに、積極的に話しかけることが大切だと彼女は語る。「対話は、世界観を広げてくれます。そのときに大事なのは、相手のことを知ろうとする気持ち。旅先での出会いは、人生を変える契機になりうるのではないでしょうか」

彼女にとって、初の海外渡航先は、高２の時に訪れたタイ。世界遺産アユタヤの前で、出会った少年の姿にハッとさせられた。「片腕がない男の子が、花束をどっさり抱えて、私に駆け寄ってきたんです。タイ語は分からないけれど、目力の強さや言葉の必死さに圧倒されました。当時の私は、なんとなく日々を生きていたんです。でも、彼と出会って、一つ一つの体験や出会いを大事にしていこうと思うようになりました。旅は、楽しいだけではなく、いい意味で生き方を再考できる場だと思います」

新型コロナの影響で、旅行が難しい状況が続く。彼女は、「決して遠くに行くことだけが旅じゃないと思います。いつも通らない道を通ってみたでも、近場に行ってみたでもいいんです。場所や距離ではなく、旅先で何を感じるかが大切です」と語る。かつての彼女は、旅先が遠いほど、価値があると思っていたが、家や大学の近くでも人の温かさがあると気づいた。旅先で感じることに、心のアンテナを張ることが、素敵な旅の秘訣だという。

時に、人生を変える出会いがある。旅は、そんな素敵なものだよと伝えたい。旅に行くことを躊躇している女の子を応援したい。そんな思いを抱えて臨んだコンテスト。３次審査、11日間のＷＥＢ投票では、約１万1300票を獲得した。ＳＮＳで発信をする中で、新たな目標もできた。「いろんな人に応援してもらい、人の温かさを感じました。次は私が挑戦する人を応援したいです」と笑顔で話す。

彼女が挑戦を大事にしているのは、挑戦がその人自身を磨き上げるからだ。「挑戦することでしか味わえない気持ちや出会えない言葉があると思うんです」と熱く語る。将来は「視聴者が行動を起こしたくなるような未知なる世界を、自分の言葉で伝えたい」と思い描く小野さん。彼女が様々なことに挑戦する姿は、きっと多くの人が一歩を踏み出すきっかけに繋がっていくだろう。

（いちご大福）

記者の日常（1）

人生の生き方

とにかく最近いいことがない。挑戦したことはことごとく失敗したし、一つの失敗が後を引きずり他のことに手がつかない。凝らなくて良いところを凝るせいで本当にやらなければいけないことをやり逃す。なんだか孤独を感じてひどく寂しく、勝手に拗ねて卑屈になって毎日が全く楽しくない。自分の部屋はどんどん汚くなる。夜、布団に入ると本当に自分が嫌になって眠れなくなる。

この話を電車の中で友人に話していたら、私は不覚にも泣いてしまった。幸い、車内に他の乗客はおらず、広い車内に二人きり。並んで座りながら泣く女と黙って肩に手をおく女。映画のワンシーンみたいだな、と冷静に思う自分もいた。

◇◇◇◇◇◇◇◇

最寄り駅まであと一駅のところで友人は「あんたは本当に生きるのが下手だねー」と言った。「私はそんなあんたを愛しく思うよ」とも。嬉しかった。物事に必要以上に傷ついてしまうのも、要領よくこなすことができないのも、全部自分が悪いと思っていたけど下手だからできないだけなんだとハッとした。

絵を描くのが下手、ダンスが下手、というよくある特性と同じで私は生きるのが下手なだけなんだと思った。しかもそんな下手さを愛しいとまで言ってもらえた。落ち込んでいた私には、私のことをあんた呼びする友人の親しさすら嬉しかった。

◇◇◇◇◇◇◇◇

辛い時、自分だけが苦しんでいるように思えるけれど、生きづらさに頭を抱えている人は思うよりたくさんいるのだろう。みんなそれぞれ、さまざまな事情や痛みを抱えながら懸命に生きている。すべてが幸せそうに見えるあの人も、悲しくて眠れない夜があったのだろうか。

しばらくはまだ生きるのって大変だと思う日が続くかもしれないけど、生きるのが下手だから仕方ない。少しずつ上達していくほかない。

◇◇◇◇◇◇◇◇

人間、万事塞翁が馬。気を張らないで、とりあえず部屋だけはきれいにしよう。

（M・K）

塾生新聞会では、メンバーを募集中
私たちと一緒に記事を書きませんか？
welcome.jukushin52@gmail.com
までご連絡ください！　※慶大生のみ入会可

障がいのある学生のための就活サイトなら クローバーナビ
2022卒学生の就活準備を応援！
★先輩社員からの就活アドバイスVOICE公開中！
就活に迷ったり不安を感じたりしている人に送る、成功者である先輩からの就活アドバイス&お役立ちコンテンツ
★インターンシップ情報随時更新
インターンシップ募集中企業の最新情報を随時更新中！
★就活準備イベント予約受付中
キャリアデザイン・インターンシップ 合同説明会
2/3(水) 13:00～17:00 東京都立産業貿易センター浜松町館
参加企業 朝日新聞社、NTTドコモ、東京地下鉄（東京メトロ）東芝（事業会社５社合同）、日本放送協会（NHK）東日本電信電話【NTT東日本】 など多数出展予定！
無料会員登録受付中
まずはクローバーナビをチェック！ クローバーナビ 検索
就職支援の実績45年以上!!
人と企業にInnovative Solution
株式会社 ジェイ・ブロード

RBM Residence Building Management
不動産の総合プランナー
企業・ワーカーの良きパートナーとして、
オフィスビルやレジデンスを通じて、安全、快適、
そしてクリエイティブな環境づくりの実現を目指し、
RBMは日々挑戦を続けています。
▲22卒向けインターンシップ情報はこちら
レジデンス・ビルディングマネジメント株式会社